

中学校英語科グループ研究会

グループ員：藤中 政徳	(東中学校)	大石 沙耶香	(東中学校)
横地 綾	(西中学校)	石井 千鶴	(西中学校)
下垣 彩佳	(西中学校)	木村 早織	(西中学校)
近藤 麻衣	(南中学校)	今西 美貴	(南中学校)
佐々野 綾美	(北中学校)	寺澤 達郎	(北中学校)
富永 千香子	(天王寺川中学校)	水口 直子	(天王寺川中学校)
小野 敦貴	(天王寺川中学校)	高田 早基子	(松崎中学校)
勝木 晃平	(荒牧中学校)	福島 千津子	(荒牧中学校)
横島 裕一	(荒牧中学校)	武田 祐季	(笹原中学校)
有村 理	(笹原中学校)	峯 聖二	(笹原中学校)

担当指導主事：中田 智継

キーワード：授業力向上 英語教育 自己研修 授業構成 Backward design

1 研究テーマ

「英語科教員の資質・指導力向上についての研究」

2 研究内容

伊丹市内各中学校の英語科では、若手の教員が増えている中で、市内中学校の教員間で交流を図り、以下の内容を目的とした研修や授業研究を行った。

(1) 授業力の向上

先輩教員を講師に招き、授業実践に関する講義や質疑応答を通して、自らの授業を振り返ることで、授業力改善の一助とした。

① Reading 活動の実践

- ア Reading を行う手順
- イ 知的プレッシャーの与え方
- ウ Input と Output の方法
- エ 個人とペアの使い分け

② 授業の組み立てについて

- ア 文法定着に向けての活動
- イ 教科書 USE の活用
- ウ 自己表現活動の工夫の仕方

(2) 「授業を見る目」を育成する

参加教員は自らの授業をビデオ撮影し、先輩教員や他の教員からアドバイスをもらい、自己研修の方法を学んだ。また、他の教員の実践を見学することが、授業改善への視点を増やすきっかけとなった。

① 自己研修の進め方

- ア 指導案の書き方
- イ 授業後の振り返り方
- ウ 自己評価からの具体的な改善点の発見

② 授業改善について

- ア 授業構成の立て方(Backward design という考えを元に)
- イ 単元計画から授業のねらい・目標の立て方
- ウ ねらいから逆算した「つながりを持った」活動の考え方(4技能のバランスを考えて)

(3) 若手教員同士のネットワークを作り、相談や情報交換をしやすい環境を作る

- ① 普段の授業実践についての協議を教員同士で重ね、お互いの悩みを共有し、自らの授業の改善



につなげた。

- ② 授業で使うワークシートを教員同士で交換、共有し、授業でのアイデアを増やすなどの情報交換を行った。

(4) 研修会の実施内容

- ① 第1回 10月27日 オリエンテーリングとグループワーク
- ② 第2回 11月19日 Reading 活動についての講義・ワークショップ
(講師：南中学校 寺井 浩治 教諭)
- ③ 第3回 12月17日 先輩教員による公開授業・研究協議
(授業者：教科等指導員英語科 西中学校 堺 晶浩 教諭)
総合教育センター「教科等研修講座」と合同開催
- ④ 第4回 1月21日 英語を使った導入とアクティビティ
- ⑤ 第5回 3月18日 英語授業実践のふり返りと新年度に向けて

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 先輩教員からの講話や指導を通して、「生徒につけさせたい力」といった、ねらいを明確にした授業づくりを行うことができた。
- ② 研修会で自己研修の実践や授業構成の仕方を具体的に学び、多くの教員が普段の授業実践に活かすことができた。
- ③ 若手教員同士での協議や授業アイデアなどの情報交換、グループ別での指導案作りを通して、英語授業の考え方を共有することができ、互いに刺激を受けながら、交流を図ることができた。

(2) 課題

- ① 研修した内容を実践するために、研修回数を定期的に確保し、継続して行う必要がある。
- ② 研修を通して作りあげた教員同士のネットワークを、研修会だけではなく普段の授業作りなどで自発的に活用できるようにすることが求められる。